

一九八二年三月二十五日
発行



第 65 卷 第 2 号 史学・地理学・考古学

論 説

- 元・明交替の理念と現実……………檀 上 寛 (1)
——義門鄭氏を手掛りとして——
- 初期庄園の経営……………丸 山 幸 彦 (32)
——越前国東大寺諸庄の場合——
- ルターと「皇帝に対する武力抵抗権」……………永 田 諒 一 (70)
——領邦教会制の対外的弁証——
- セプティミウス・セウェールスとローマ元首政……………南 川 高 志 (104)

紹 介

- 『細谷松太著作集』I・II (小泉 洋)
- L. フェーヴル著 二宮敬訳『フランス・ルネサンスの文明』(森原 隆)
- R. H. C. デーヴィス著 柴田忠作訳『ノルマン人』(山邊規子)

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

ではロベール・ギスカールらの活躍がノルマンの不敗信仰を創りあげるのに寄与しており、その意味ではノルマン人の範疇にはいることになる。つまり、ここにまたノルマン人であつてノルマン人でない存在ができてしまう。一一世紀のノルマンディの人々にせよ、イタリアのノルマン人にせよ、著者の定義ではこのように不明瞭な位置づけしかできないとすれば、定義づけ自体に問題があると言わざるを得ない。

実際、著者デーヴィスは、ノルマン人を一つの客観的存在としての民族とみなすことに対する疑問から出発し、神話による結びつきによる民族を強調したのだが、むしろ彼の考える「ノルマン人」が民族といえるのかという問題に遡及することの方がよりよくその実体に迫りえるのではなからうか。たとえば、著者がノルマン神話の命題の一つとして挙げている「ノルマンディという統一への帰属意識を持つこと」にはもつと大きい意味をもたせることができるように思われる。すなわち、ノースマンの支配によって生まれたノルマンディに住み、あるいは、ノルマンディからやってきた人こそノルマン人（第二次）であり、イン

グランドやイタリアへ赴いたノルマン人の子孫がノルマン人でなくなつたとすれば、それはノルマンディから切り離されていつたからであると考えられよう。そして、一三世紀にノルマン人が姿を消すとすれば、それはノルマンディの地位が低下し、フランスの中の一地方人の意味しか持たなくなつたためであるとは考えられないだろうか。

以上、本書を手にして感じられたことを幾つか述べてきたが、何よりもノルマン人（第二次）の理解に一つの新しい視点を提供してくれるその意義は大きく、この邦訳を大いに歓迎したい。なお、訳には一部に不適當と思われるところもあつたが全般に読みやすく、また多くの写真が載せられていてわかりやすいものとなつているので、「ノルマン人」についての入門書として活用することも可能であり、多くの人が一読されることを期待したい。

（四六判）二〇五頁 一九八一年七月
刀水歴史全書一〇（二二〇〇頁）
（山越規子）京都大学大学院生

受贈図書

（一九八一年一月二七日～四月二三日）

- 三康文化研究所所報 一五
- 日本史研究（日本史研究会） 二二一
- 史迹と美術（史迹と美術同友会） 五二一
- 研究紀要（尾道短期大学） 三〇
- 韓国史研究彙報（韓国国史編纂委員会） 三一
- 神道史研究（祇園八坂神社） 二九一
- 民族学研究（日本民族学会） 四五―三
- 奈良大学紀要（奈良大学） 九
- 井上鋭夫著 山の民・川の民（平凡社）
- 文学会志（山口大学文学会） 三一
- 神道学（出雲大社神道学会） 一〇八
- 斯道文庫論集（慶応義塾大学斯道文庫） 一七
- 神道史研究（八坂神社神道史学会） 二八
- 一四
- 文学部論叢（立正大学文学部） 六九
- 鹿兒島経大論集（鹿兒島経済大学） 二一
- 一四
- 東洋学文献類目（京都大学人文科学研究所） 一九七八年度
- 民族研究（北京民族研究雜誌社） 一九八

一年一期

朝鮮学術通報(在日本朝鮮人科学者協会)

一六一三・四

人類学雑誌(日本人類学会) 八九一

肥田政彦著 邪馬壹国(所謂邪馬台国)は

焼津・登呂(肥田政彦)

社会科学(朝鮮社会科学院図書館) 一九

八〇年六

人文学(同志社大学人文学会) 一三六

文化学年報(同志社大学人文学会) 三〇

歴史学報(韓国歴史学会) 八七・八八

紀要(札幌大学教養部) 一七

金日成著作集二(朝鮮社会科学院図書館)

社会科学論叢(長崎大学教育学部) 三〇

人文論叢(東京工業大学) 六

文理論集(西南学院大学) 二二―二

東北学院大学論集(文経法学会) 一一

石炭研究資料叢書(九州大学石炭研究資料

センター) 二

産業社会論集(立命館大学) 二六・二七

立命館史学(立命館史学会) 二

岡崎市史研究(岡崎市史編纂委員会) 三

東京大学出版会図書目録(東京大学出版会)

一九八一年版

三好洋子著 イギリス中世村落の研究

(東京大学出版会)

文明(東海大学文明研究所) 三一

三浦古文化(京浜急行電鉄三浦古文化研究

所) 二八

経済経営論集(龍谷大学経済経営学会)

二〇一三・四

南方文化(天理南方文化研究会) 七

山形大学史学論集(山形大学) 一

人文論叢(福岡大学) 一二―四

広島大学文学部紀要(広島大学) 四〇、

四〇特輯号一・二

文化語学集(朝鮮社会科学院図書館) 一

一九八一年

教養部紀要(徳島大学) 一六

人文科学論集(信州大学人文学部) 一五

編集後記

また雪です。雪と言えば、遙か昔の大学院入試の日も雪でした。受験のため自転車
で急いでいた小生、路傍から友人に呼びか
けられた拍子に路面凍結のため転倒してし
まいました。事なきを得たものの、友人は
「スベル」凶兆ではないかと心配し、そこ
で、一度滑っておけばあとは安心だと解そ

うという合意をなしたものです。ともあれ、
本号が御手元にとどきますのは、風花が桜
吹雪にかわるのにもまもなく、新入院生が研
究者の道を目指してやって来るのもまもな
くのころでしょう。

元・明連統性を地主類型を通じて検証し
ようとしたユニークな檀上論文、初期庄園
について大胆な問題提起を行なった丸山論
文、深く沈潜してルター思想の構造を抉り
出した永田論文、通説を支える足を一本一
本切り倒すがごとき新鋭南川論文、充分御
吟味下さい。

(もう一人の敏)

一九八二年二月二五日印刷 定価九〇〇円
一九八二年三月一日発行

史 林 (第六五巻第一号)

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部

発行人 史学研究会
理事長 樋口隆康
振替京都五一五五番

京都市下京区七条御所ノ内中町五〇
中村印刷株式会社

印刷所

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. LXV No. 2 Mar. 1982

CONTENTS

Article :

- The Idea and the Reality on the Turn from the *Yuan*
元 Dynasty to the *Ming* 明 Dynasty : the case of the
Yimen Zheng family 義門鄭氏*H. Danjo* (1)
- The Management of Early Manors : the case of
the Manors of *Tōdaiji* 東大寺 in *Echizen* 越前*Y. Maruyama* (32)
- Luthers Auffassung vom landesfürstlichen
Widerstandsrecht gegen den Kaiser*R. Nagata* (70)
- Septimius Severus and the Principate*T. Minamikawa* (104)

Miscellaneous :

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan

ISSN 0386—9369